

星空ガイド 4月16日～5月15日

よいの星空

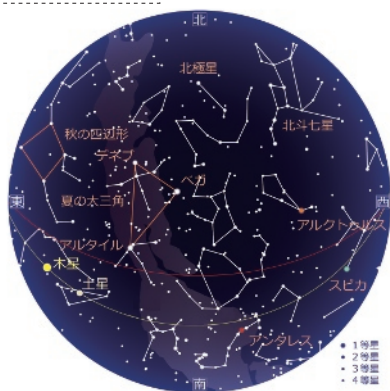
4月16日22時頃
5月 1日21時頃
15日20時頃



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星

あけの星空

4月16日 4時頃
5月 1日 3時頃
15日 2時頃



- 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星

〔太陽と月の出入り(大阪)〕

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
4	16	金	5:25	18:30	7:44	22:19	4.0
	21	水	5:19	18:34	11:57	1:44	9.0
	26	月	5:13	18:38	17:38	4:41	14.0
5	1	土	5:07	18:42	23:37	8:21	19.0
	6	木	5:02	18:46	2:29	13:36	24.0
	11	火	4:58	18:50	4:43	18:19	29.0
	15	土	4:55	18:53	7:05	22:05	3.3

※惑星は2021年5月1日の位置です。

4月17日 月・火がならぶ

4月17日、西空、おうし座の角の先あたりで、月齢5.0の月と、赤い火星とが並んでいます。南アジア方面では、火星の前を月が横切り、火星食になっているはずですが、大阪では月が火星の南側を通過していくのが観察できます。

右図はステラナビゲータ11を利用して制作した、火星に対する1時間ごとの月の位置です。

なぜ、相対的な位置関係が変わるのかといえば、月が約ひと月で、地球の周りを回っているからです。

地球の自転により、月も火星も星座の星も1時間に、 $360^\circ \div 24\text{時間} = \text{約}15^\circ$ 東から西へと移動します(日周運動)。

一方、月は1日に、 $360^\circ \div 30\text{日} = \text{約}12^\circ$ 、西から東へと移動します。これは1時間あたりでは 0.5° の移動です。月の視直径が約 0.5° ですから、星に対して1時間経つと、月は1個分ずつ日周が遅れていくこととなります。明るい星と月がならんだ時、時間を置いて観察すると、この月の動きがよく分かります。

火星の距離は2億8千万kmと遠ざかり、明るさは1.5等と二等星のレベルにまで落ちました。月・火がならんで、火星に対する月の相対的な移動を数時間にわたって観察できるのは、2021年中は今回がほぼ最終です。お見逃しなく！



図. 2021年4月17日の1時間ごとの相対的な位置変化 (ステラナビゲータ11を利用して作図)

石坂 千春(科学館学芸員)

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
4	17	土	土用の入 月と火星が接近
	19	月	水星が外合
	20	火	●上弦(16時)／穀雨(30°)
	22	木	4月こと座流星群が極大
	26	月	夕方低空に水星と金星が接近
	27	火	○満月(13時)
	28	水	月が最近(357400km)

月	日	曜	主な天文現象など
5	1	土	八十八夜／天王星が合
	3	月	土星が西矩
	4	火	●下弦(5時) 月と土星がならぶ
	5	水	立夏(45°)／月と木星がならぶ
	7	金	みずがめ座η流星群が極大の頃
	12	水	●新月(4時)